

いわせ ほっとニュース



病院フェスティバル



総合防災訓練

[公立岩瀬病院の基本理念]

患者さん中心の医療を実践し、
地域の皆さんに信頼される病院をめざします。



公立岩瀬病院

<http://www.iwase-hp.jp/>



病院
公式サイト



友だち募集中!

LINE 公式アカウント



YouTube
公式チャンネル



Instagram
公式アカウント

Contents

Dr's Cafe	2
研修医が「優秀演題賞」を受賞しました...	3
総合防災訓練実施報告	4
中学生職場体験実施報告	4
病院フェスティバル開催報告	5
クラウドファンディングについて	5
栄養ミニ情報	6
新任医師紹介	6



小児科部長
小笠原 啓 医師



インフルエンザワクチン

朝夕の冷え込みが強まり、今年もインフルエンザの流行が心配される季節になりました。

全国的に、今年は昨年よりも流行開始が早いとされ、福島県での流行開始も時間の問題と考えられます(執筆時10月6日現在)。インフルエンザは、突然の高熱や全身の倦怠感を特徴とし、特に小児や高齢者、基礎疾患をもつ方では重症化することがあります。発症を一定程度予防し、重症化や死亡のリスクを減少させる有効な方法がワクチン接種です。当院では、**10月14日から**今シーズンの接種を開始しております。現在、国内で一般的に使用されているのは「不活化ワクチン」で、注射によって接種します。13歳未満の小児では2回接種が望ましく、効果は5か月ほど持続します。

一方で、近年注目されているのが「経鼻噴霧型生ワクチン(フルミスト®)」です。これは弱毒化した生きたウイルスを鼻腔に噴霧するタイプのワクチン(生ワクチン)で、海外では小児を中心に広く使用されています。

特徴として、

- ・ 注射でないで、痛みがない。
- ・ 1回だけの投与。
- ・ 鼻や咽頭の粘膜で免疫を誘導できるため、より自然な感染防御に近いなどがあります。



対象は2歳以上19歳未満ですが、**当院では小児科でのみ、つまり15歳以下の方に限定**させていただいておりますのでご注意ください。重度のアレルギー、喘息、または免疫不全のある方はお控えください。

ワクチンを接種しても「絶対にかからない」わけではありませんが、かかったとしても重症化を防ぐ効果があることが多くの研究で示されています。高齢者では肺炎や入院のリスクを減らすこと、小児では集団生活での流行拡大を抑えることに寄与します。地域の皆さまが安心して冬を過ごせるよう、早めのワクチン接種をお勧めいたします。

研修医が「優秀演題賞」を受賞しました！

研修医とは、医師国家試験に合格して医師免許を取得した後、病院などで2年間の臨床研修を行い、診断や治療の基本を学ぶ医師のことを指します。

今回は日本消化器外科学会において「優秀演題賞」を受賞された研修医2年目の田中理香先生にインタビューを行いました。それでは、田中先生よりお願いいたします。

*公立岩瀬病院を研修病院として選択した理由と、研修を通じて感じた当院の印象は？

病院見学に来た際に感じた病院全体の雰囲気の良いさと、自分の采配で忙しさを決められるので自分のペースで勉強しながら成長できると思ったからです。

実際に研修を始めてみると印象通りの雰囲気で、今ではコメディカルのスタッフさんたちとも幅広く仲良くさせていただいていますし、勉強面に関しても上級医の先生方に手技や勉強の機会を多く与えていただいています。

*今回、日本消化器外科学会の「優秀演題賞」受賞、おめでとうございます！学会発表までの苦労や学んだことについてお話しいただけますか？

初めての学会発表で、必要な抄録やプレゼンテーションの作り方をはじめ、何もわからない状態でした。指導医の岡田先生や他の先生方にもどうしたらいいかを沢山質問し、アドバイスをいただきました。演題の内容についてはもちろんですが、発表時に注意すべき点なども総合的に学べたと思います。

*今後の目標を教えてください。

積極性を持って様々なことに挑戦し、日々勉強をしながら技術と知識を磨き上げ、研修生活でも今後の医師としての生活でも悔いが残らないよう沢山のことを経験していきたいと思います。

*当院での研修も残りわずかとなりました。地域の皆さんに伝えたいメッセージなどをお聞かせください。

まだまだわからないことが多く、ご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、少しでも地域みなさんの役に立てるよう、残りの研修期間も精一杯過ごしていきたいと思いますので、温かく見守って応援していただけると嬉しいです。



令和7年度 地域災害拠点病院総合防災訓練

防災管理委員長 續 橋 彰 夫

令和7年9月11日(木)、公立岩瀬病院では地域災害拠点病院としての役割を果たすべく、地域災害拠点病院総合防災訓練を実施しました。今回は、福島県沖を震源とするマグニチュード8.2の地震が発生し、須賀川市で震度6強を観測したという想定のもと、訓練を行いました。

当日は須賀川消防署、医療機関、行政機関のほか、公立岩瀬病院附属高等看護学院生には患者役として協力いただき、総勢約230名が参加する大規模な訓練となりました。

実際の災害を想定したリアルな訓練により、職員一人ひとりが迅速かつ的確に対応する重要性を再認識するとともに、関係機関との連携の大切さも学ぶ貴重な機会となりました。

今後も地域の皆さまの安心・安全を守るため、防災意識の向上と体制の強化に努めてまいります。



中学生職場体験

9月に、須賀川市内の6つの中学校から21名の中学生を職場体験として受け入れました。病院は医師や看護師だけでなく、薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・管理栄養士など、さまざまな職種が働いていること、また実際にどのような業務をしているのかを知ってもらえるように企画しました。

看護部では、血圧・体温・血中酸素飽和度の測定、車いすやストレッチャーの搭乗体験、新生児の沐浴の見学など、看護師や助産師の業務を体験してもらいました。医療技術職部門では、薬の調剤・管理・説明を行う薬局、放射線を用いた診断を行う放射線科、病気の診断に必要な検査を実施する臨床検査科、医療機器の操作・保守を担当するME室、身体機能の回復や日常生活動作の改善を行うリハビリテーション科、患者に合わせた食事の提供や栄養指導を行う栄養管理科、健康診断を通じて病気の予防・早期発見を目指す検診センターなど、多くの部署を見学しました。

今回の職場体験が将来の職業選択の一助となれば幸いであり、今後も未来の医療を担う人材を育てる取り組みを続けてまいります。



第18回 公立岩瀬病院フェスティバル開催

第18回公立岩瀬病院フェスティバル実行委員長 三本松 直子



令和7年10月11日(土)に第18回公立岩瀬病院フェスティバルを開催しました。

須賀川吹奏楽団の素敵な演奏を皮切りにフェスティバルが始まり、8月に開催されたフラガールズ甲子園で日本一に輝いた、県立あさか開成高校フラ・タヒチアンダンス愛好会による見事なステージに多くの来場者が魅了されました。

健康講座では二人の医師による「乳がんについて」と「脂肪肝について」の講演が行われ、来場者から多くの質問が寄せられ、理解を深めていました。

開催当日はあいにくの雨模様でしたが、多くの地域の皆さんにご来場いただき、院内は大いに賑わいました。

来年以降もフェスティバルを継続開催できるよう、職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。



クラウドファンディングへのご支援ありがとうございました

10月1日から挑戦していたクラウドファンディングは、当初の目標金額を大きく超える9,294,220円となり無事終了いたしました。

多くの皆様からの応援は私たち病院職員にとっても大きなやりがいに繋がっております。

皆様からのご支援は予定していたベッドの更新、そして当初の目標金額を超えた分も「赤ちゃんとお母さん」のための環境整備に活用させていただきます。

ご協力ありがとうございました。



栄養ニ情報



風邪の予防に

「さつまいものミルクスープ」

1人分 エネルギー225kcal 炭水化物26.5g
蛋白質5.9g 脂質10.7g 塩分1.6g 食物繊維2.5g

《材料》

・さつまいも	120g	・有塩バター	6g
・玉ねぎ	80g	・粉チーズ	2g
・マッシュルーム	40g	・牛乳	100ml
・ベーコン	30g	・水	300ml
・コンソメ	4g	・パセリ	少々

作り方

- ① さつまいもは1cm程度の幅に食べやすい大きさに切り、10分程度水にさらしておく。
- ② 玉ねぎ、マッシュルーム、ベーコンは厚めのスライスにする。
- ③ 鍋にバターを熱し、玉ねぎとベーコンを少し焼き色が付くまで炒める。
- ④ 水を切ったさつまいもとマッシュルーム、さらに水とコンソメを加えて10分程度煮込む。
- ⑤ 最後に牛乳と粉チーズを加えて沸騰しない程度に3分程度煮込んだら完成。

さつまいもには食物繊維とビタミンCが豊富に含まれています。食物繊維は腸内環境の改善や便秘の解消に効果があります。また、ビタミンCは風邪を予防したり免疫力を高めてくれる働きがあります。さつまいものビタミンCはでんぷんに守られているため壊れにくく、加熱しても効率よく摂取することができます。これからの時期は温かい物を食べて体温を上げ、風邪に負けない体を作りましょう。

新任医師紹介



桑 原 篤 憲 (くわばら あつのり)

診療科：総合診療科 出身地：岐阜県大垣市

出身大学：川崎医科大学 趣味：お城巡り

ひとこと：地域の皆さんがこの地域で安心して暮らせるよう、医療の面から支えていきたいと思っています。



公立岩瀬病院

【編集・発行】

公立岩瀬病院 広報委員会（広報誌発行部会）

〒962-8503 福島県須賀川市北町20番地
Tel 0248-75-3111 Fax 0248-73-2417
E-mail koho@iwase-hp.jp